たくみ

TAKUMI

No.016

平成16年6月●初夏号

信州名匠会

（題字：故　池田三四郎　前名誉会長）

「やきもの」の伝統とINAX工場、そして中部国際空港

平成15年度研修旅行「愛知県の建築」

信州名匠会の平成15年度研修旅行は、11月8・9日、27名の参加により行われた。今回はINAX常滑東工場、建設中の中部国際空港など、最先端の技術が結集した現場をはじめ、常滑やきもの散歩道や産業技術記念館など歴史と伝統の場を訪れ、「ものづくりの心と技」について改めて考える機会となった。

中部国際空港の展望デッキにて。環境やコスト削減の配慮も多い。施設内には植栽や人工樹を配置するガーデンがある。屋上には太陽光パネルとその周囲を囲む緑化エリアを設けている。ガラスのカーテンウォールには熱線吸収ガラスや、汚れにくく清掃頻度を削減できる光触媒を活用している。

コンセプトは「和」地域に開かれた空港を目指す

愛知万博に向け、平成17年2月の開港を目指す中部国際空港は、愛知県知多半島にある常滑（とこなめ）市沖の伊勢湾海上にある。中部日本の新しい空の玄関口として、また世界からの物流拠点としての期待は大きく、最良のアクセスと高い経済性を目指している。

24時間の利用が可能で、滑走路が3,500メートルと国際線利用にも十分対応できるため、新東京国際空港（成田）や関西国際空港とならぶ第1種空港に認められている。海上空港としては長崎、関西につぎ国内3番目。海底の地盤は強固で、地盤沈下の心配も少ない。空港島は580ha。施設面積は470haで、ナゴヤドーム100個分にあたる。

施設は、鉄道や駐車場からの入口となる「マルチアクセスターミナル」、商業施設もある「旅客ターミナル」、レストランや屋上庭園など一般客も利用できる「展望デッキ（センターピア）」、左右対象に配置された国内線と国際線の各「ターミナル」、管制塔などの「運営関連施設」などで構成されている。

全体は「和」との融合をコンセプトとする。天井は構造材によって構成する面にパンチングメタルなどをはめ込み、外光を柔らかく取り込みながら“折り紙”のような造形を創り出す。各所に配置したメカニカル・ランタンは“あんどん（行灯）”のようにそれ自身が柔らかく光り、空調と天井への間接照明となる。壁は“びょうぶ（屏風）”をモチーフとした面にし、床には“市松”や“格子”などの模様を採用する。商用エリアも“宿場町”などをイメージしたデザインを取り入れている。

広い通路幅やスロープ、床の配色で通路エリアを設定するなど、だれでも利用しやすいユニバーサルデザインを多く採用している。商用施設やレストラン、展望デッキなど、飛行機に乗らない人も楽しめる空間を設け、地域に開かれた空港を目指している。

北ウイング（国内線）ゲートラウンジ付近。建設費のほか、メンテナンス費用も考慮しコストを削減するトヨタ方式で建設を進める。現場では資材が整然と並べられ、無駄なごみなどは見当たらない。品質向上と安全のため、天井の鉄骨などは地上で組み立て、クレーンで持ち上げ設置するという。

研修旅行スナップ

INAX常滑東工場で研修を受ける参加者。この工場は大正13(1924)年、INAX発祥の地に創立。やきものの伝統に培われた高度な窯業技術を受けつぎ、充実した設備によって、表情豊かな外装タイルの数々を生産している。

常滑の「やきもの散歩道」を散策する。土管を積み重ねて作られた外壁や路面が、やきものの町らしい風情を漂わせている。

工場内に展示されているハイテクテラコッタ。「ご利用してくださるすべてのみなさまに、ご満足いただける製品づくり」をモットーに、美しさ、機能性、施工性を求め、「あらゆる条件でJIS規格よりさらに厳しい社内規格を定め、きめ細かい品質管理を徹底している」という。

産業技術記念館。ものづくりの心に出会い、知り、体験できる博物館として、トヨタグループの発祥の地である、旧豊田紡織本社工場に残された建物を生かして設立された。

研修旅行日程

11月8日(土)

長野市－世界のタイル博物館・INAX工場－常滑市内にて、INAX様に準備していただき、昼食－中部国際空港建設現場(現場説明・日建設計)－常滑やきもの散歩道－師崎港よりフェリーにて篠島港－篠島の宿ギフヤ旅館(泊)

11月9日(日)

師崎港－半田市の(株)ミツカンの博物館「酢の里」・中埜酒造(株)國盛「酒の文化館」－名古屋ビール園にて昼食－産業技術記念館－野外民族博物館リトルワールド－長野市

平成15年度研修旅行「愛知県の建築」参加者名簿

(27名。氏名／所属。敬称略)

伊藤章・(有)アキプランニング、西宮登喜男・(株)綿内瓦工業、五明良平・(株)五明、坂田守夫・坂田工業(株)、鎌倉良収・(株)鎌倉木材店、山崎邦男・山崎工務店、鈴木隆・ルームデザインハウス、吉田雅彦・(有)スタジオ・スペースツー、竹内公夫・(株)ビホームテクノクリエート、常田亀久夫・(株)菅平土建、堀誠・堀幸一・中里雄一・堀建築設計事務所、山崎博之・INAX長野営業所、岩井秀樹・岩井工業(株)、内山保・朝陽工芸(有)、鳥羽英夫・伊藤征児・長野サウナ販売(株)、樋口豊・(株)ライフエンジニアリング、中村泉・(有)ビーイング、佐藤満博・(株)二見屋、高梨裕之・(有)高梨建設、細田正彦・藤森鉄平石(株)

【事務局】西澤嘉雄・市村友慎・(株)宮本設計、岸本貴志・(株)本久、神主英子・(株)新建新聞社

会員にきく
「たくみの仕事」Vol.9

まちに色彩の癒しを創る

株式会社五明　代表取締役　五明良平さん（長野市西和田）

profile●昭和14（1939）年3月10日生まれ、65歳。趣味はゴルフや旅行。家族は妻と子ども4人（3男、1女）。

五明さん。社長室にて。

創業90年の歴史をもつ塗装業、（株）五明社長の五明良平さん。塗装について「色彩の癒しを創り出す仕事」とその魅力を説明する。「建築物は塗装しだい」と建築士が言うほど、建築物の色や質感の仕上げに欠かせない存在だ。五明さんは建築士からの信頼も厚い。塗装を熟知した者でなければ、そういった信頼関係は築けない。

色の持ちや塗り面の保護効果が求められた時代から、デザインや芸術性といった美観が求められるように変化してきた。「色には年中苦労する」と語る。最近は、環境や健康に害が少なく、下地面に合って美しく仕上がるうえ、施工性の良さや、価格の適正さまで見極めなければならない。シックハウス問題などに注目が集まり、とかく塗装業への規制は厳しい。F☆☆☆☆の塗装剤では、施工性が悪かったり、仕上がりがうまくいかないものがあったりなど、不景気で仕事が減るなか、施工の面でも苦労が多い。「建築物の価値のほか、建物の周辺に暮らす人の心も左右させてしまう」。そんな責任感を背負いながら、あらゆる現場で活躍してきた。

若手に塗装を指導する五明さん。「どんな作業でも、自分でやって見せて、技やコツを伝授しています。常に新しい情報を集め、最新の技術を手にして、現場に生かすように心がけています」。

父・武夫さんが、明治43（1910）年に松代で塗装業を創業した。物心ついた時から父の仕事ぶりを見ていたせいか、自然と刷毛の持ち方、ペンキの塗り方などは身についた。大学では無線の勉強をしたが、卒業後に帰郷し入社。昭和39年には株式会社化するまで成長させた。

現在、社員は40人。社内での勉強会や後進への指導も熱心だ。材に合った塗装剤の選び方や仕上げ方など、研究に余念がない。3棟ある自社の建物のうち、2棟に練習用の作業場と講習などを開く勉強部屋がある。塗装に関する勉強会を開いたり、施工時の安全対策などについて、社員に指導も行ったりしている。

現在は、3人の息子さんが会社の経営や現場管理をバックアップする。息子さんらに対しては「仕事に対し妥協をせず、いい仕事をちゃんと評価できる目を養ってほしい」と将来への期待をのぞかせる。「職人の心を失わず、時代の流れもくみ、人を不愉快にさせない塗装をやりたい」。塗装に向きあう姿勢は常に謙虚だ。

趣味はゴルフや旅行と活動的。今年のGWは、四国、関西、金沢など2500kmを、最近お気に入りの愛車モビリオで巡った。「今はまだ、45歳くらいの気持ち」と元気いっぱいだ。

会員にきく
「たくみの仕事」Vol.10

お客さんとの信頼関係が一番

長野サウナ販売（株）　代表取締役　鳥羽英夫さん（長野市篠ノ井）

profile●昭和22（1947）年6月28日生まれ、56歳。飯山市出身。家族は、両親と妻、3人の息子。早朝野球などで体を動かすのが好きで、春にはコゴミ、ウド、ワラビ、秋にはキノコなど、山菜採りを楽しむ。

「サウナと言えば長野サウナ」と言われるほど、施工実績が多い長野サウナ販売（株）の社長・鳥羽英夫さん。県内にあるサウナのうち、かなりの数を同社の施工が占める。サウナのほか、薪ストーブや暖炉も設計、販売する。

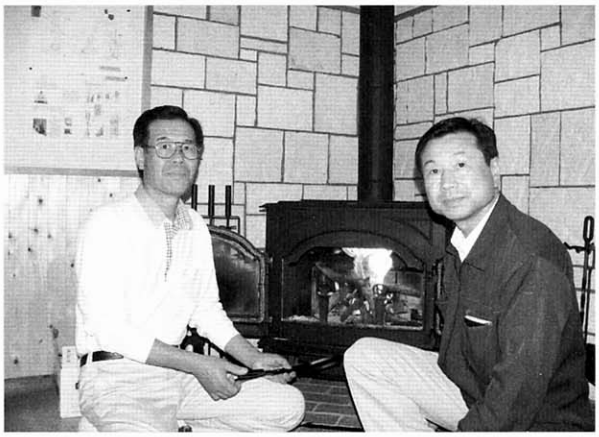
10数年勤めた自動車メーカーの営業マンを辞め、サウナ業界に飛び込んだ。会社を興した昭和49（1974）年頃は、オイルショックの時代で、当初はあまり乗り気でなかったが、「目新しく、だれもやっていない」ということで覚悟を決めた。「サウナをどこに売ればいいのかさえ分からず戸惑った」と当時を振り返る。入札前に、数あるゼネコンや設計業者とつきあうことが必要と知り、「相当に大変な仕事だな」と実感した。

「押しボタンをどうやって付けるのか、照明はどうするかと、いつも自分で考え、加工して作った」という。大工仕事も配線の仕事も、すべて自分でこなした。国内にあるサウナに関する書籍はもちろん、翻訳本まで読みあさった。「開業1～2年のころは電気の知識に乏しく、施工したサウナは電線管の結露でショートしてしまい、すべてやり直した。失敗から一つひとつ学んだ」と苦笑する。

「ふるさと創生事業による温泉掘削ブーム、そして近年の健康志向の高まりが、経営を後押ししてくれています。技術の向上とアフターサービスの徹底を心がけます」と鳥羽社長。

鳥羽さん自身は、「やや低温のドライサウナでゆっくり入る」のがおすすめ。しかし最近は、100℃前後の温度が好まれ、またウェットタイプやミストタイプなど、いろんなサウナが普及している。サウナの広さに応じて、温度設定を変え、種類についてアドバイスするなど、施主さんに適したサウナを提案するのも仕事の一つだ。

薪ストーブや暖炉についても、自分で設計図面を書く。「建物のある地形や風の向き、屋根の形状と煙突の位置も考慮しなければ、うまく燃えるストーブや暖炉は作れない」という。「建築物の設計者と、暖炉の設計で大激論になることもある」という。「本当に燃えるストーブ、心地よい火が焚ける暖炉をつくりたい」との熱意は強い。



本社に隣接して建てたショールームにて。創業3年目の年に迎えた"相棒"の山本耕平専務（右）と、北欧から輸入した薪ストーブに点火して。山本専務は、営業車で県内外の得意先を訪ね、年間6万キロは走る。

施工した現場には、ひんぱんに顔を出し、顧客との連絡を密にする。遠方などでアフターサービスが難しい施主には、施工を断ることもあるほどだ。大きい地震の後には、顧客へ点検を呼びかける配慮も忘れない。「顧客との信頼関係を一番大切にしたい」と話す。最近は、十数年前に施工した物件の改修工事も多いという。「また、うちにやってもらいたいって、思ってくれてるってことかな」とうれしそうだ。そういった仕事に対する姿勢が、高い実績につながっているようだ。

現在は、息子さんが会社に入社し、ほかの社員と一緒に仕事をしている。「顧客満足度を高めながら、会社の規模を拡充していきたい」と展望を語る。

定例研修会●Report

（平成15年12月～平成16年4月）

【忘年会】

平成15年12月19日、花満月（長野市）にて、参加者24名

【新年会】

平成16年1月27日、三井ガーデンホテル長野「四川楼」にて、参加者36名

【木造建築における、建築基準法改正による構造補強金物の見直しについて】

告示の内容をわかりやすく紹介した図を使って説明する金井氏

平成16年2月27日
講師：(株)カナイ　金井邦夫氏
参加者：21名

基準法は、最低限の基準を定めたもの

阪神大震災以降、大幅な見直しが図られた建築基準法と補強金物について、学習した。金井氏はまず、法第一条の「この法律は、建築物の敷地、構造、設備及び用途に関する最低限の基準を定めて、国民の生命、健康及び財産の保護を図り、もって公共の福祉の増進に資することを目的とする」を紹介。それにもかかわらず、阪神大震災において建物の倒壊などにより、3万人もの人々が死傷したこと。その後、平成12年の法改正を受けて、告示第1460号で「仕口金物」の規定が設けられたことを、説明された。

○告示では、筋交いの端部における仕口について、筋交いのサイズによって、5種類を定めていること。○告示通りの施工では、45×90の筋交いの端部に、12mmボルトがついてしまうこと。○告示には、「これらと同等以上の引張耐力を有する接合方法によらなければならない」とあり、（株）カナイでは、その同等金物の制作販売を主力としていること。

また、○構造計算によって安全が確かめることなしに、告示に規定された以外の接合方法で施工した場合は、違法建築であり、瑕疵の対象となることを、力説された。
参加者からは、○簡易的な引張耐力計算（N値計算）のこと、○同等耐力を確認する測定試験方法、○材種による木のもつ耐力の違いなど、それぞれの職種ならではの意見が活発に出された。

【現存民家の将来展望について】

かつ玄の床の間と食事のテーブル

平成16年3月30日
講師：(株)降幡建築設計事務所　降幡廣信氏（本会副会長）
かつ玄社長　瀧澤功氏
参加者：26名

「新築」と「復元」とは違う「再生」の道を歩んで

降幡氏

降幡氏が22年ほど前から取りくまれてきた民家再生について、再生された建物の施主のお一人である瀧澤功氏の事例とともに、お話を伺った。今回の研修会は長野市を離れ、瀧澤氏が松本市北部の島内で営まれている「かつ玄」を会場に開催した。

同店は、降幡氏が10年ほど前に手がけられた、とんかつと炭火焼のお店。瀧澤氏はかつて、市内中心部に店舗をお持ちであったが、同市近郊への新規出店を考えておられた。この建物の建てかえを考えていた所有者の方と瀧澤氏の間を、降幡氏が仲立ちされ、建物を再生して店舗として活用

する話がまとまった。

瀧澤氏

瀧澤氏は、○市南部に大型ショッピングセンターがオープンするなど、人々の流れが移っていった時期に、あえて北部に出店するにあたり、「道から隠れて商売する。お客に便利すぎてはダメなのでは？」と考えたこと、○民家再生による店舗であることを、店の魅力として打ち出し、建物からイメージしたメニューも考案されていることなどを説明。今日まで順調に営業をつづけられていると語られた。

降幡氏は、民家の「再生」の世界を開拓するにあたり、その道を示してくれた建築史家の関野克氏との出会いなどについて、つぎのように語られた。「関野氏は、『私は保存、復元を手がけてきたが、あなたは新しい扉を開くかもしれない。その道をつけてほしい』と言われました」。そして「再生された建物には、その建物が経てきた時間の味わい、落ち着きと奥ゆかしさや、日本的な精神性があります」と結んだ。

古きよき物を大切に使う民家再生は、町並み景観だけではなく、生活習慣など、暮らしのあり方をも考えさせてくれる要素があることを、あらためて感じる研修会となった。

【写真撮影教室と陶芸制作】

吉田氏の丁寧で的確な助言で、それぞれが写真術をレベルアップさせていた

村越氏の手の動きを真剣なまなざしで見つめる。自作の名品、誕生の予感…

平成16年4月24日
講師：写真撮影　(有)スタジオ・スペース・ツー社長
吉田雅彦氏
陶芸制作　雪しろ窯主宰・創造学園大学教授
村越久子氏（本会理事）
参加者24名

「作る」ことの喜びにひたった、春の一日

毎年春、村越氏のご厚意により、恒例になった陶芸制作に、今回は写真撮影教室が加わった。会員の吉田氏のご指導で、写真撮影をする時の姿勢やカメラの持ち方、被写体を照らす光の向きや、レフ板という光の反射板を使って、光の向きをコントロールする効果など基礎的な知識を学習。屋外にカメラも持ち出し、ファインダーから満開の八重桜や新緑の光景をとらえながら、撮影を楽しんだ。

村越氏のお心のこもった昼食に舌鼓を打ったあと、参加者はそれぞれ、日常使いの茶碗や皿をはじめ、大皿など難易度の高い作品に挑む方など、回を重ねるごとにバラエティーに富む作品が、数多く見られた。

焼き上がった作品は6月の総会で展示し、優秀作品には賞状が贈られる。

宮本忠長会長 2003年度日本芸術院賞、信毎賞を受賞

宮本忠長会長

日本芸術院は、卓越した芸術作品や芸術の進歩に顕著な業績が認められた人に贈る2003年度日本芸術院賞（美術部門）に、本会会長の宮本忠長氏（76）を選び、6月7日、東京・上野の日本芸術院会館で授賞式行われた。今回の受賞者は、全国で13名。

宮本氏の受賞理由は、2002年3月完成の松本市美術館の設計。同館が中心街路の新鮮な顔となり、やさしい明るさを創出したことなどが高く評価された。

また、信濃毎日新聞社と信毎文化事業財団はこのたび、第11回信毎賞を2氏、1団体に贈ることを決め、宮本氏の受賞を発表した。

同新聞創刊記念日にあたる7月5日、長野市のホテル国際21で贈呈式を行い、正賞のブロンズ像「耀（かがや）く」と副賞を贈る。 宮本氏の受賞理由はつぎのとおり。

「長野市を基盤に、50年余りにわたって建築設計・監理に手腕を発揮。上高井郡小布施町の『町並修景』の技法は全国各地の地域づくりに取り入れられた」。

●退会〈氏名・会社名・住所。敬称略〉

○上條勲・（有）上條板金加工所　松本市島内6255－1

●平成16年度通常総会開催のおしらせ

○ 日時／平成16年6月25日（金）
受付開始：14時30分　開会：15時
講演会　講師：市川健夫氏（長野県立歴史館長、信州名匠会顧問）
演題：「信州の森林的風土と材」
懇親会：17時30分～
○ 会場／メルパルクNAGANO（長野駅より徒歩2分）
※ 親睦ゴルフ大会は、8月上旬に開催する予定です。

たくみ No.016
［信州名匠会ニュース］
発行日：平成16年6月24日
発行者：信州名匠会　会長　宮本忠長
編集者：信州名匠会事務局
制作協力：文屋、(株)新建新聞社
連絡先：（株）宮本忠長建築設計事務所
事務局：西澤嘉雄・市村友慎・岸本貴志・木下豊・神主英子
〒381-0012　長野市柳原1875-1　TEL：026-241-5510　FAX：026-243-0187